

V 理想子ども数と予定子ども数の関連要因の検討

1 本章の目的

本章では、区民女性を対象とした調査（「子育てしやすい環境の充実に向けた調査」）のデータを用いて、将来人口に大きな影響を及ぼす理想の子ども数と予定の子ども数（実際に持つつもりの子どもの数）に関連する要因の検討を行う。

（節の構成）

- 2 理想子ども数と予定子ども数に関する前章までの結果概要
- 3 各項目とのクロス集計結果の有意性一覧
- 4 同居者と理想子ども数、予定子ども数、両者の差
- 5 相談相手と理想子ども数、予定子ども数、両者の差
- 6 女性の就業や家族等に係る価値観と理想子ども数、予定子ども数、両者の差
- 7 勤め先企業のワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者の有無と理想子ども数、予定子ども数、両者の差
- 8 港区への居住意向と理想子ども数、予定子ども数、両者の差
- 9 示唆される課題と対応の方向性

第2節では理想子ども数と予定子ども数に関する前章までの結果概要を示す。第3節では理想子ども数、予定子ども数及び両者の差と各項目のクロス集計結果の有意性一覧を示し、第4節以降では第3節におけるクロス集計結果の詳細をみる。最終節では示唆される課題と対応の方向性を検討していく。

なお、クロス集計については、有意水準5%（ $p < 0.05$ ）を基準に統計的有意性を検出した結果のみを示し、傾向を読み取っていく。

2 理想子ども数と予定子ども数に関する前章までの結果概要

第III章では、区民女性を対象とした調査データの単純集計及びクロス集計を行った。主な結果は以下のとおりである。

- ・理想子ども数は2人以上と回答した人が約8割、予定子ども数は2人以上と回答した人が約半数。（図表3-110、112）
- ・既婚者の平均理想子ども数は2.26人、平均予定子ども数は1.61人（図表3-113）。
- ・一生結婚するつもりはない人¹⁾を除く35歳未満の未婚者の平均理想子ども数は1.96人、平均予定子ども数は1.22人と、既婚者より少ない（図表3-113）。

3 各項目とのクロス集計結果の有意性一覧

理想子ども数、予定子ども数、両者の差を軸にしたクロス集計の有意性一覧を、図表5-1に示す。

なお、図表5-1では、政策的示唆に富む項目のみについて掲載しているため、全ての結果については本章末尾の資料を参照されたい。

図表内の「○」の印は、5%水準（ $p < 0.05$ ）で統計的に有意な差が示された項目を示している。例えば、表右上の「あなたの配偶者」と「予定子ども数」が交差するセルに「○」が付されているのは、「あ

1 未婚者のうち、「一生結婚するつもりはない」と回答した人は6.23%であり、35歳未満に限定すると4.14%となっている（第III章図表3-42参照）。

なたの配偶者」の同居の有無によって「予定子ども数」に有意な差があることを示している。

他の変数と比較し、理想子ども数については女性の就業や家族等に係る価値観で、予定子ども数については妊娠や子育てについて相談する相手、生活時間、各種満足度で、理想と予定の子ども数の差については同居者の続柄、勤め先企業のワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者の有無において、有意な差がみられた項目が多かった。

次節では、本節で示したクロス集計の結果の詳細を示していく。

図表 5-1 各項目と理想子ども数、予定子ども数、両者の差の有意性一覧

		理想子ども数	予定子ども数	両者の差
同居者の続柄	あなたの配偶者	○	○	○
	あなたの父親			○
	あなたの母親			○
	配偶者の父親			
	配偶者の母親			
与の以平 し子下日 て育のに いて子小 るにと学 人関も生	あなたの配偶者(子の父親)			
	あなたの父親(子の祖父)			
	あなたの母親(子の祖母)			
	配偶者の父親(子の祖父)			
	配偶者の母親(子の祖母)			
妊娠や子育てについて相談する相手	妊娠や子育てについての不安や悩みはない	○	○	
	誰にも相談しない	○		
	誰に相談したら良いか分からない			○
	同居している家族・親族	○	○	○
	同居していない家族・親族	○	○	
	友達(SNS上の友達を除く)	○	○	
	SNSで知り合った友達、知り合い			
	SNS等不特定多数の人が見ることのできる場所に書き込む			
	交際相手		○	○
	職場の同僚			○
	区の相談窓口(みなと保健所、子ども家庭支援センター、児童相談所、福祉総合窓口、港区おとなの子育て相談ねっとなど)			
	国や東京都など区以外の公的な相談窓口(東京都妊娠相談ほっとライン、親子のための相談LINEなど)		○	○
	民間の相談窓口		○	
	その他			
	女性の就業や家族等に 価値観	医師、助産師、カウンセラー		
保育士、先生、療育先等の通所先の職員				
結婚しても結婚相手や家族とは別の自分だけの人生の目標を持つべきである		○		
結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ		○		○
夫に十分な収入がある場合には、妻は収入を伴う仕事をしない方が良い		○		
結婚したら子どもを持つべきである		○	○	
子どもが小さいうちは母親は仕事を持たずに家にいることが望ましい				
生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない		○	○	
女性が最初の子どもを産むなら20代のうちが良い		○	○	
(生物学的)男性同士、女性同士の結婚があっても構わない		○		
女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	○	○		
男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	○	○		
両親のどちらかがいなくても、両親のいる家庭と同じように子どもを育てることができる	○			
年老いた親の世話に対する成長した子どもの責任は大きい				
関ラ すイ るフ 制 度 バ ラ ン ス の ウ ク ・ ラ イ フ ・ バ ラ ン ス 向 上 に 無 に	フレックスタイム制度(本人)			○
	育児時間制度(子育てに配慮した労働時間削減、短時間勤務等)(本人)	○	○	○
	育児休業制度(本人)		○	○
	介護休業制度(本人)		○	
	企業内の保育施設(本人)			
	産前産後休業(本人)	○		○
	フレックスタイム制度(配偶者)			
	育児時間制度(子育てに配慮した労働時間削減、短時間勤務等)(配偶者)			
	育児休業制度(配偶者)	○		○
	介護休業制度(配偶者)			
企業内の保育施設(配偶者)		○		
港 区 を 居 住 地 に 選 択 し た 理 由	港区への転入のきっかけ		○	○
	子どもを産み、育てる環境	○	○	○
	就労への利便性			
	公共交通機関や買い物環境の利便性			
	防災や治安等			
	まちの景観・街並み			
	親族や友人等の人間関係			
	公園や区の施設(スポーツ施設や区民センター等)		○	○
	高齢者・障害者向けの福祉環境			
	資産価値			
行政サービスの充実				
その他				
定住意向	○	○	○	

4 同居者と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

まず、理想と予定の子ども数の差において多くの有意な差がみられた、同居者について結果を示す。続いて、同居者と類似する項目であると考えられる、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人について、理想子ども数、予定子ども数及び両者の差では有意な差がみられなかったものの、間接的な関連があると推測し、第Ⅲ章で予定子ども数に有意な差がみられた世帯所得と平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人のクロス集計を行った結果を示す。

(1) 同居者と理想子ども数と予定子ども数の差のクロス集計結果

- ・回答者本人の両親との同居の有無により、「理想と予定の子ども数の差」に有意な差がある
- ・回答者本人の配偶者及び両親と同居している人は、「予定よりも理想の子ども数が多い」（理想子ども数と予定子ども数が同一又は予定子ども数が理想子ども数を上回っている）割合が高い

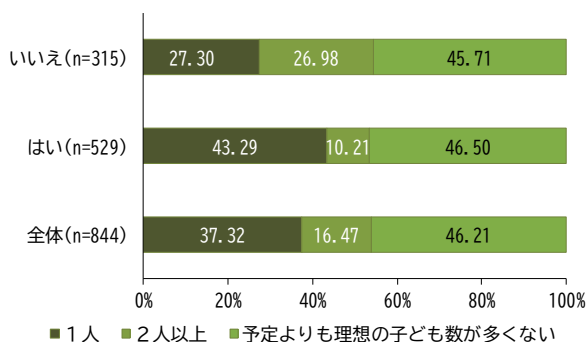
一般的に子育てへの関与度が高いと考えられる、「あなたの配偶者」「あなたの父親」「あなたの母親」「配偶者の父親」「配偶者の母親」（「あなた」は回答者本人を表している）についてクロス集計を行った結果、「あなたの配偶者」を除く全ての項目において、理想子ども数及び予定子ども数に有意な差はみられず、「あなたの配偶者」「あなたの父親」「あなたの母親」と理想と予定の子ども数の差についてのみ有意な差がみられた。

有意な差がみられた理想と予定の子ども数の差の結果を、図表5-2に示す。「あなたの配偶者」（回答者本人の配偶者）と同居している人は、「予定よりも理想の子ども数が多い」（理想子ども数と予定子ども数が同一又は予定子ども数が理想子ども数を上回っている）人が46.50%であるのに対し、同居していない人は45.71%であった。また理想と予定の格差が大きい「2人以上」（予定子ども数が理想子ども数より2人以上少ない）に該当する人を見ると、「あなたの配偶者」と同居している人は10.21%、同居していない人は26.98%であった。

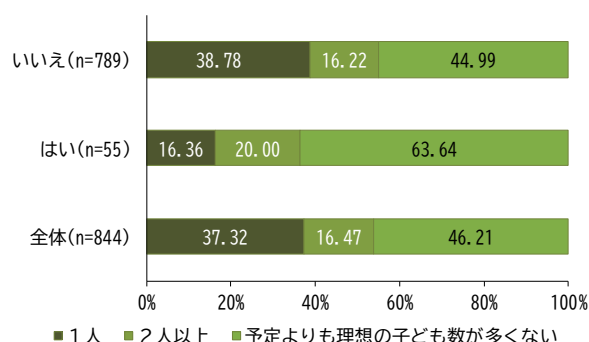
「あなたの父親」と同居している人は、「予定よりも理想の子ども数が多い」人が63.64%であるのに対し、同居していない人は44.99%であり、「あなたの母親」と同居している人は、「予定よりも理想の子ども数が多い」人が56.25%であるのに対し、同居していない人は45.16%であった。

図表5-2 同居者の続柄と理想と予定の子ども数の差のクロス集計結果

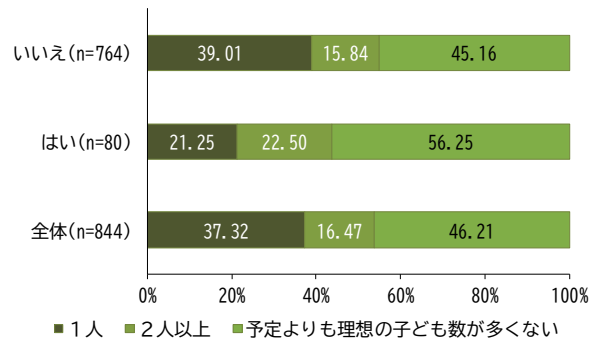
(イ) あなたの配偶者



(ロ) あなたの父親



(八) あなたの母親



注：縦軸は「はい」が当該続柄の人と同居していることを示している。横軸の「1人」は「予定子ども数」が「理想子ども数」より「1人」少ないことを示しており、「2人以上」も同様である。いずれも子ども数の理想を叶えることができていない状態である。以下、同様。

(2) 平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人に関するクロス集計結果

- ・平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人と理想子ども数、予定子ども数、両者の差に有意な差はみられなかった
- ・一方で、平日の子育て関与者が「あなたの配偶者(子の父親)」及び「配偶者の母親(子の祖母)」の場合において世帯所得(等価所得5分位)に有意な差がみられた

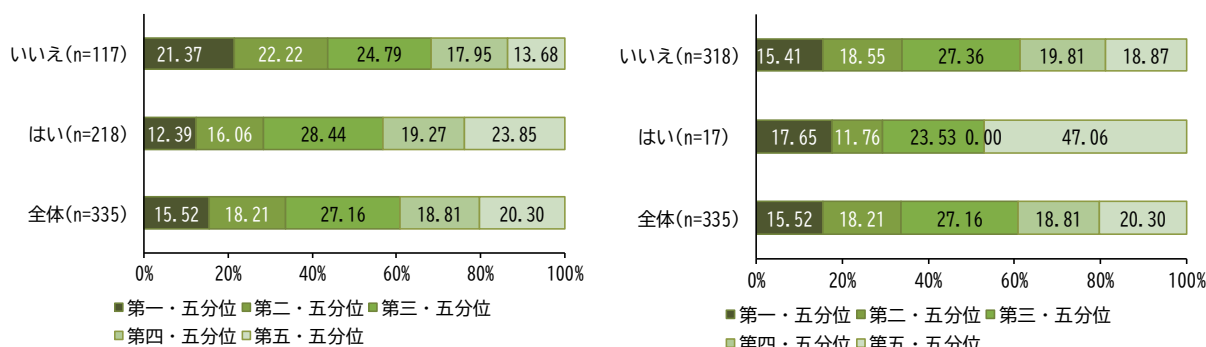
同居者と類似する項目であると考えられる、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人(「あなたの配偶者(子の父親)」「あなたの父親(子の祖父)」「あなたの母親(子の祖母)」「配偶者の父親(子の祖父)」「配偶者の母親(子の祖母)」のみ)と子ども数のクロス集計の結果、全ての続柄において、理想子ども数、予定子ども数、両者の差に有意な差はみられなかった。なお、「平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人」を尋ねた設問において、「あなた(子の母親)」の回答割合は96.35%となっており、ほとんどの回答者が平日に小学生以下の子どもの子育てに関与していると回答したことから、本項における分析には「あなた(子の母親)」を含めていない。

一方で、予定子ども数と関連がある(予定子ども数に有意な差がみられる)ことが明らかになった世帯所得(等価所得5分位)について、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人とのクロス集計を行った結果、「あなたの配偶者(子の父親)」と「配偶者の母親(子の祖母)」で世帯所得(等価所得5分位)に有意な差がみられた。有意な差がみられた項目のクロス集計の結果を、図表5-3に示す。

「(イ) あなたの配偶者(子の父親)」について、「第五・五分位」の割合は、「あなたの配偶者(子の父親)」が子育てに関与している人は23.85%であるのに対し、関与していない人は13.68%となっている。

「(ロ) 配偶者の母親(子の祖母)」について、「第五・五分位」の割合は、「配偶者の母親(子の祖母)」が子育てに関与している人は47.06%であるのに対し、関与していない人は18.87%となっている。

図表 5-3 平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人別世帯所得（等価所得5分位）
（イ）あなたの配偶者（子の父親） （ロ）配偶者の母親（子の祖母）



注：（1）縦軸は「はい」が子育てへの関与があることを示している。（2）第一・五分位：0～389万円、第二・五分位：390～601万円、第三・五分位：602～875万円、第四・五分位：876～1250万円、第五・五分位：1251万円以上。

5 相談相手と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

- ・「予定子ども数」について、多くの相談相手種別において有意な差がみられた
- ・「家族・親族」（同居の有無を問わない）及び「友達」を相談相手としている人は、予定子ども数が多い割合が高い

妊娠や子育てについて相談する相手についてクロス集計を行った結果、予定子ども数について、理想子ども数及び理想と予定の子ども数の差よりも多くの相談相手種別において有意な差がみられた。妊娠や子育てについて相談する相手別の予定子ども数について、有意な差がみられた項目のクロス集計の結果を、図表5-4に示す。

「（イ）妊娠や子育てについての不安や悩みはない」について、「0人」と回答した割合をみると、「いいえ」（不安や悩みがある）は21.13%であるのに対し、「はい」（不安や悩みはない）は46.94%となっている。

「（ロ）誰に相談したら良いか分からない」について、「0人」と回答した割合をみると、「いいえ」は20.70%であるのに対し、「はい」は59.52%となっている。

「（ハ）同居している家族・親族」について、「2人」又は「3人以上」と回答した割合の合計をみると、「いいえ」は37.63%（31.19+6.44）であるのに対し、「はい」は60.75%（49.78+10.96）となっている。

「（ニ）同居していない家族・親族」について、「2人」又は「3人以上」と回答した割合の合計をみると、「いいえ」は45.32%（36.70+8.62）であるのに対し、「はい」は54.57%（45.43+9.13）となっている。

「（ホ）友達」について、「2人」又は「3人以上」と回答した割合の合計をみると、「いいえ」は44.50%（36.32+8.18）であるのに対し、「はい」は54.97%（45.47+9.49）となっている。

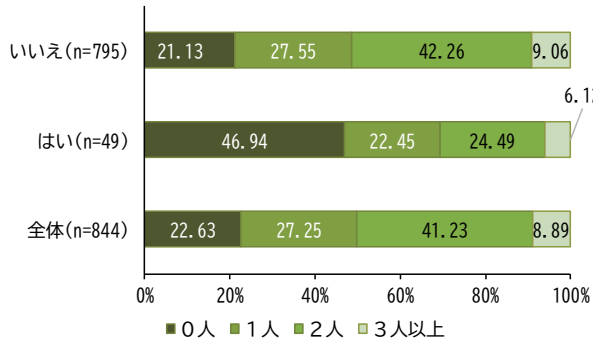
「（ヘ）交際相手」について、「0人」と回答した割合をみると、「いいえ」は20.51%であるのに対し、「はい」は39.78%となっている。

「（ト）国や東京都など区以外の公的な相談窓口（東京都妊娠相談ほっとライン、親子のための相談LINEなど）」について、「0人」と回答した割合をみると、「いいえ」は22.03%であるのに対し、「はい」は40.74%となっている。

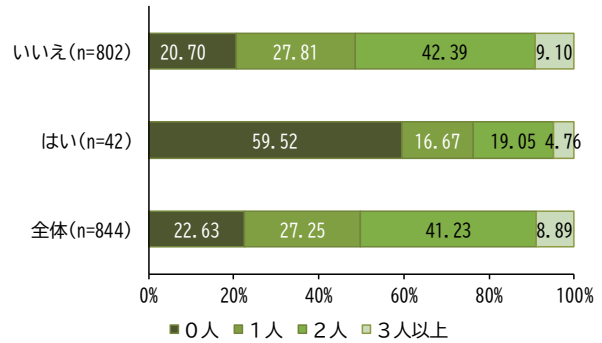
「（チ）民間の相談窓口」について、「0人」と回答した割合をみると、「いいえ」は22.02%であるのに対し、「はい」は61.54%となっている。

図表 5-4 妊娠や子育てについて相談する相手別予定子ども数

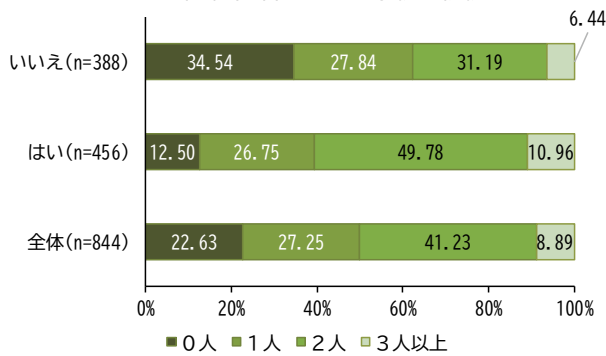
(イ) 妊娠や子育てについての不安や悩みはない



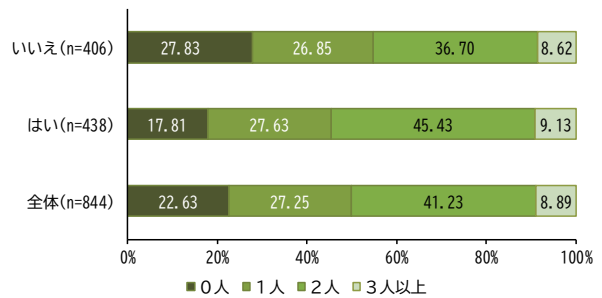
(ロ) 誰に相談したら良いか分からない



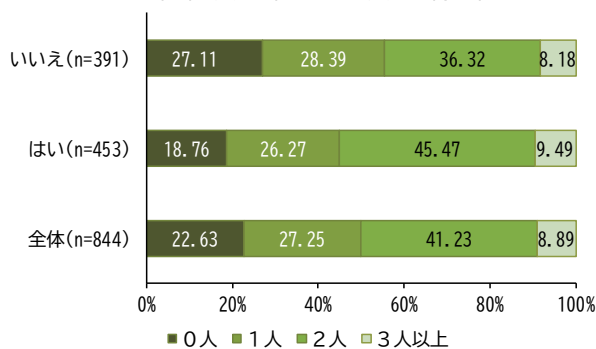
(ハ) 同居している家族・親族



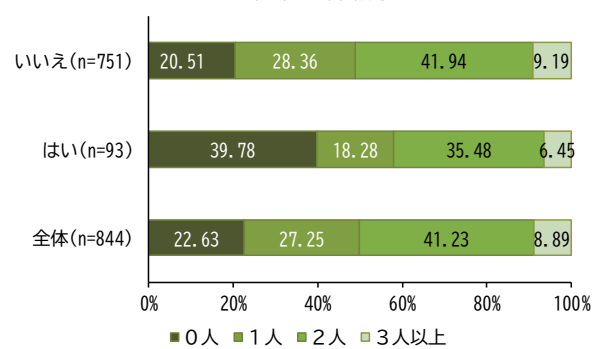
(ニ) 同居していない家族・親族



(ホ) 友達 (SNS上の友達を除く)

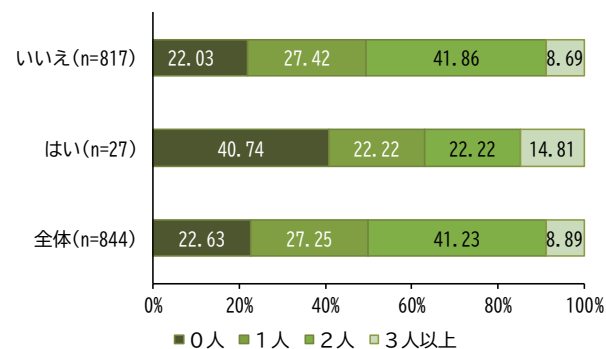


(ヘ) 交際相手

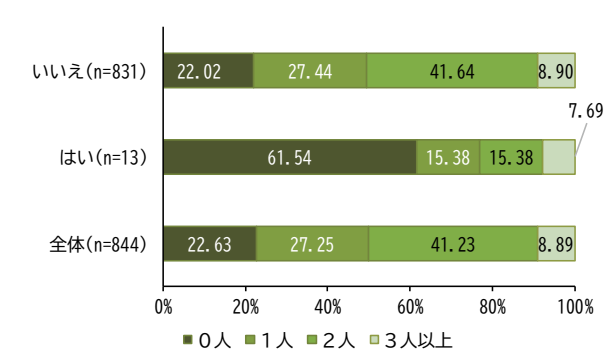


(ト) 国や東京都など区以外の公的な相談窓口

(東京都妊娠相談ほっとライン、親子のための相談 LINE など)



(チ) 民間の相談窓口



6 女性の就業や家族等に係る価値観と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

- ・「理想子ども数」について、多くの価値観において有意な差がみられた
- ・結婚しても自身の人生の目標を持つことや同姓どうしの結婚や子育てに肯定的な人は、理想子ども数が少ない割合が高く、結婚することが望ましいと考えている人や家庭のために自身の生活を犠牲にすることに肯定的な人は、理想子ども数が多い割合が高い

女性の就業や家族等に係る価値観についてクロス集計を行った結果、理想子ども数について、予定子ども数及び理想と予定の子ども数の差よりも多くの価値観において有意な差がみられた。女性の就業や家族等に係る価値観別理想子ども数について、有意な差がみられた価値観のクロス集計の結果を、図表5-5に示す。

「(イ) 結婚しても結婚相手や家族とは別の自分だけの人生の目標を持つべきである」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「どちらかといえば反対」が55.56%と最大の値を示し、次いで「反対」は54.55%、「どちらかといえば賛成」は34.36%となっている。

「(ロ) 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「賛成」が41.67%と最大の値を示し、次いで「どちらかといえば賛成」は40.00%、「どちらかといえば反対」は33.20%となっている。

「(ハ) 夫に十分な収入がある場合には、妻は収入を伴う仕事をしない方が良い」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「賛成」が46.43%と最大の値を示し、次いで「どちらかといえば反対」は36.20%、「どちらかといえば賛成」は35.42%となっている。

「(ニ) 結婚したら子どもを持つべきである」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「賛成」が46.15%と最大の値を示し、次いで「どちらかといえば賛成」は39.49%、「どちらともいえない」は28.68%となっている。

「(ホ) 生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「賛成」が42.05%と最大の値を示し、次いで「どちらかといえば賛成」は34.45%、「どちらともいえない」は33.95%となっている。

「(ヘ) 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちが良い」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「賛成」が43.04%と最大の値を示し、次いで「どちらともいえない」は30.49%、「どちらかといえば賛成」は29.50%となっている。

「(ト) (生物学的) 男性同士、女性同士の結婚があっても構わない」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「反対」が52.94%と最大の値を示し、次いで「どちらかといえば反対」は38.64%、「どちらかといえば賛成」は31.74%となっている。

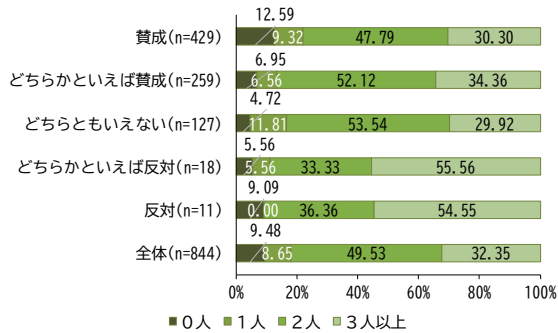
「(チ) 女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「どちらかといえば反対」が48.84%と最大の値を示し、次いで「反対」は45.16%、「どちらかともいえない」は34.25%となっている。

「(リ) 男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「どちらかといえば反対」が52.00%と最大の値を示し、次いで「反対」は41.03%、「どちらかともいえない」は32.05%となっている。

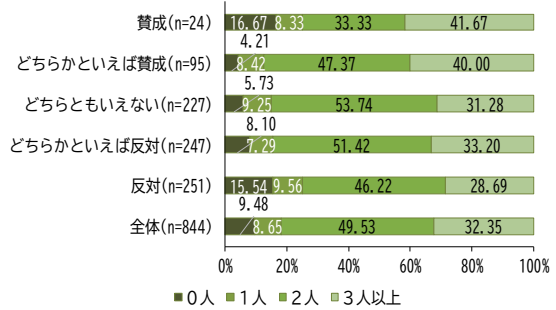
「(ヌ) 両親のどちらかがいなくても、両親のいる家庭と同じように子どもを育てることができる」について、「3人以上」と回答した割合をみると、「反対」が59.09%と最大の値を示し、次いで「どちらかといえば賛成」は35.32%、「賛成」は30.77%となっている。

図表 5-5 女性の就業や家族等に係る価値観別理想子ども数

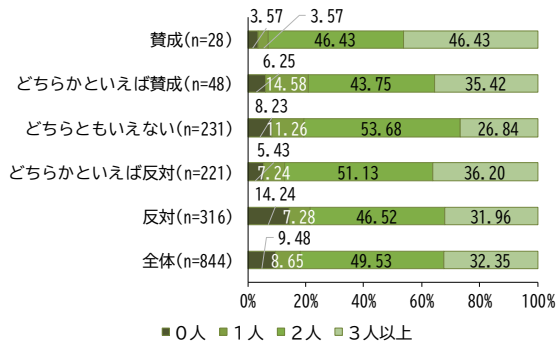
(イ) 結婚しても結婚相手や家族とは別の
自分だけの人生の目標を持つべきである



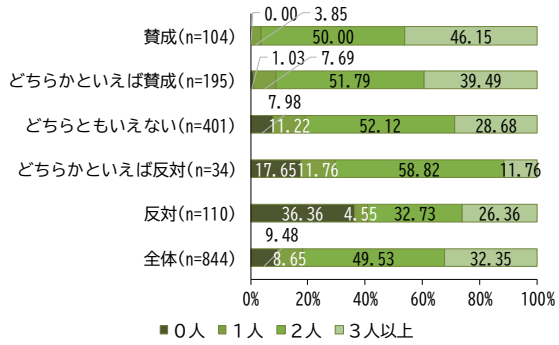
(ロ) 結婚したら、家庭のためには自分の
個性や生き方を犠牲にするのは当然だ



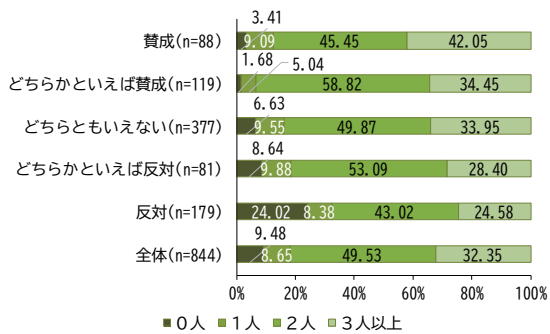
(ハ) 夫に十分な収入がある場合には、妻は
収入を伴う仕事をしない方が良い



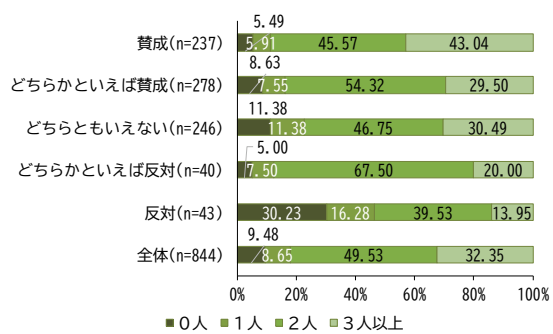
(ニ) 結婚したら子どもを持つべきである

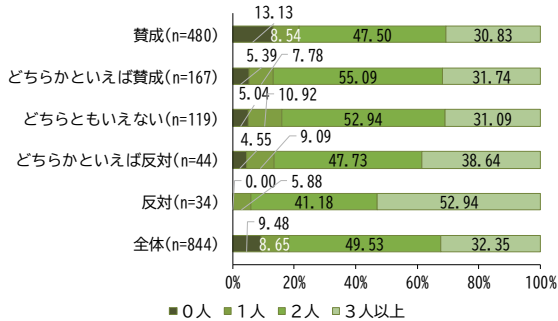


(ホ) 生涯を独身で過ごすというのは
望ましい生き方ではない

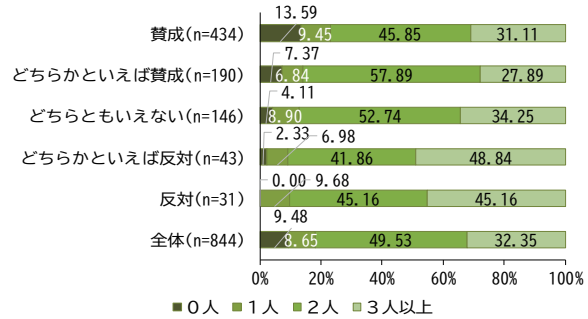


(ヘ) 女性が最初の子どもの産むなら
20代のうちが良い

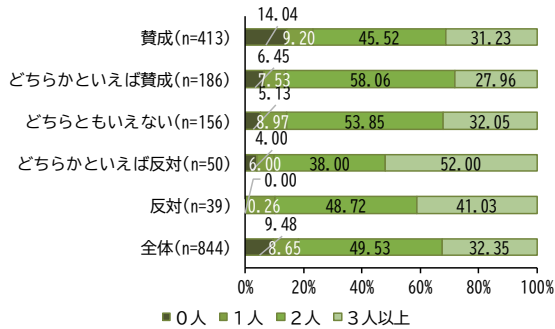


(ト) (生物学的) 男性同士、女性同士の
結婚があっても構わない

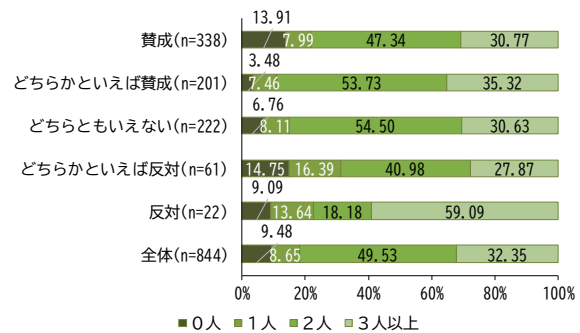
(チ) 女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる



(リ) 男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる



(ヌ) 両親のどちらかがいなくても、両親がいる家庭と同じように子どもを育てることができる



7 勤め先企業のワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者の有無と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

- ・「理想と予定の子ども数の差」について、多くの制度において有意な差がみられた
- ・回答者本人において、「フレックスタイム制度」や「育児時間制度」等の制度がない場合や勤め先の周囲に制度利用者がいない（いるか分からない）場合、「理想と予定の子ども数」の差が大きい割合が高い

勤め先企業においてワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者が周囲にいるか否かについてクロス集計を行った結果、理想と予定の子ども数の差について、理想子ども数及び予定子ども数よりも多くの項目において有意な差がみられた。勤め先企業のワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者の有無別の理想と予定の子ども数の差について、有意な差がみられた制度のクロス集計の結果を、図表5-6に示す。

「(イ) フレックスタイム制度 (本人)」について、理想と予定の子ども数の差が「2人以上」（予定子ども数が理想子ども数より2人以上少ない）と回答した割合をみると、「いない（いなかった）」（周囲に制度利用者がいない（いなかった））が21.70%と最大の値を示し、次いで「そもそも制度がない」は18.52%、「利用している人がいる（いた）か分からない」は18.18%となっている。

「(ロ) 育児時間制度（子育てに配慮した労働時間削減、短時間勤務等）(本人)」について、理想と予定の子ども数の差が「2人以上」と回答した割合をみると、「そもそも制度がない」が24.21%と最大の値を示し、次いで「いない（いなかった）」は17.11%、「利用している人がいる（いた）か分からない」

は16.18%となっている。

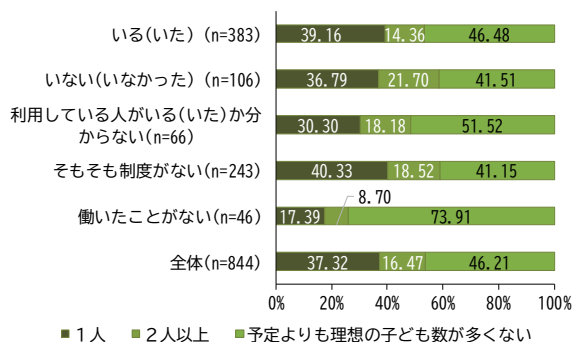
「(ハ) 育児休業制度 (本人)」について、理想と予定の子ども数の差が「2人以上」と回答した割合をみると、「そもそも制度がない」が25.00%と最大の値を示し、次いで「いない (いなかった)」は22.22%、「利用している人がある (いた) か分からない」は18.18%となっている。

「(ニ) 産前産後休業 (本人)」について、理想と予定の子ども数の差が「2人以上」と回答した割合をみると、「そもそも制度がない」が25.97%と最大の値を示し、次いで「利用している人がある (いた) か分からない」は19.18%、「いない (いなかった)」は18.60%となっている。

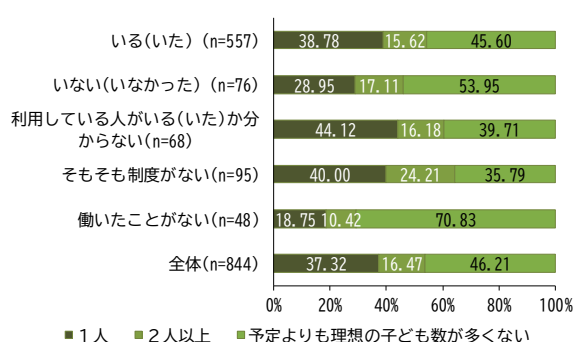
「(ホ) 育児休業制度 (配偶者)」について、理想と予定の子ども数の差が「2人以上」と回答した割合をみると、「そもそも制度がない」が22.41%と最大の値を示し、次いで「利用している人がある (いた) か分からない」は11.11%、「いない (いなかった)」は10.34%となっている。

図表 5-6 勤め先企業のワーク・ライフ・バランス向上に関する
制度利用者の有無別理想と予定の子ども数の差

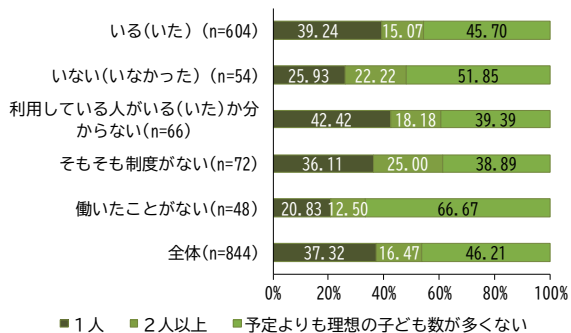
(イ) フレックスタイム制度 (本人)



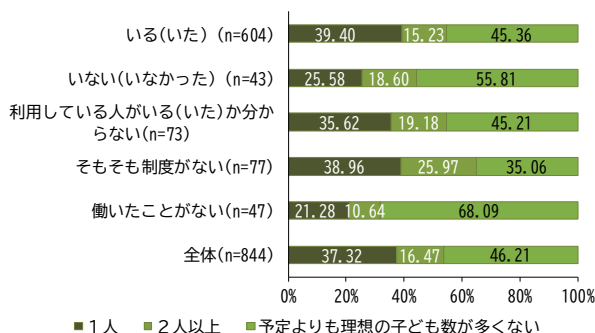
(ロ) 育児時間制度 (子育てに配慮した労働
時間削減、短時間勤務等) (本人)



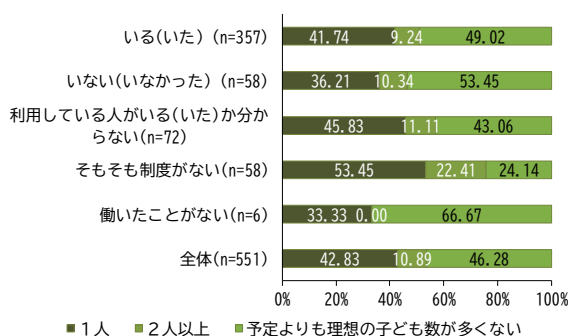
(ハ) 育児休業制度 (本人)



(ニ) 産前産後休業 (本人)



(ホ) 育児休業制度 (配偶者)



8 港区への居留意向と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

まず、港区への転入のきっかけと理想子ども数、予定子ども数、両者の差のクロス集計結果を示し、次いで、港区を居住地に選択した理由及び港区への定留意向と理想子ども数、予定子ども数、両者の差のクロス集計結果を示す。

(1) 港区への転入のきっかけと理想子ども数、予定子ども数、両者の差

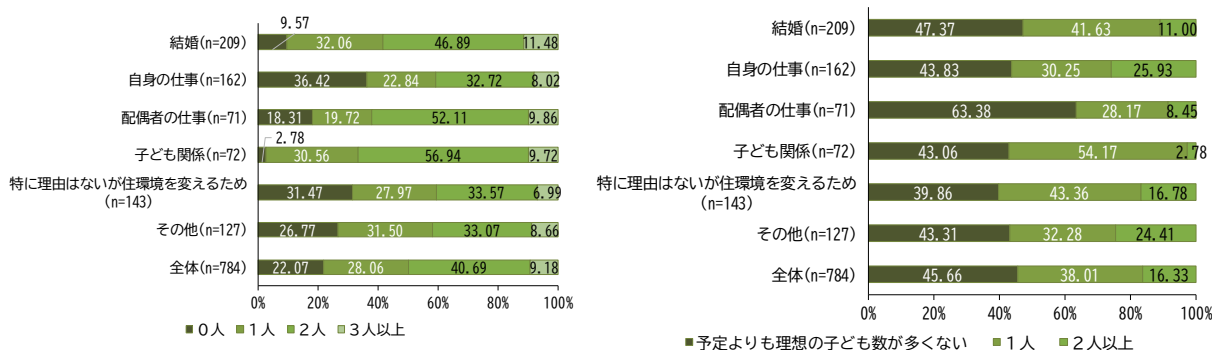
- ・「予定子ども数」と「理想と予定の子ども数の差」において、有意な差がみられた
- ・「配偶者の仕事」や「結婚」をきっかけに港区へ転入している人は、「予定子ども数」が多い人の割合が高く、「理想よりも予定の子ども数が少なくない」人の割合が高い

港区への転入のきっかけについてクロス集計を行った結果、予定子ども数及び理想と予定の子ども数の差において、有意な差がみられた。港区への転入のきっかけと予定子ども数及び理想と予定の子ども数の差とのクロス集計の結果を、図表5-7に示す。

「(イ) 予定子ども数」について、「2人」と「3人以上」を合計した割合をみると、「子ども関係」が66.67% (56.94+9.72) と最大の値を示し、次いで「配偶者の仕事」は61.97% (52.11+9.86)、「結婚」は58.37% (46.89+11.48) となっている。

「(ロ) 理想と予定の子ども数の差」について、「予定よりも理想の子ども数が多くない」(理想子ども数と予定子ども数が同一又は予定子ども数が理想子ども数を上回っている)をみると、「配偶者の仕事」が63.38%と最大の値を示し、次いで「結婚」は47.37%、「自身の仕事」は43.83%となっている。

図表5-7 港区への転入のきっかけ別予定子ども数及び理想と予定の子ども数の差
(イ) 予定子ども数 (ロ) 理想と予定の子ども数の差



注：「子ども関係」には、「子どもの出産を機に出産前に転入した」「子どもの出産を機に出産後に転入した」「子どもの保育園・幼稚園等への入園のために転入した」「子どものインターナショナルスクール（幼児向け）への入学のために転入した」「子どもの区立小学校への入学のために転入した」「子どもの私立小学校への入学のために転入した」「子どもの区立中学校への入学のために転入した」「子どもの私立中学校への入学のために転入した」「子どものインターナショナルスクール（学齢期向け）への入学のために転入した」「子どもの高等学校への入学のために転入した」「子どもの高等専門学校、専修学校、専門学校への入学のために転入した」「子どもの短期大学への入学のために転入した」「子どもの大学への入学のために転入した」「子どもの大学院への入学のために転入した」を含む。

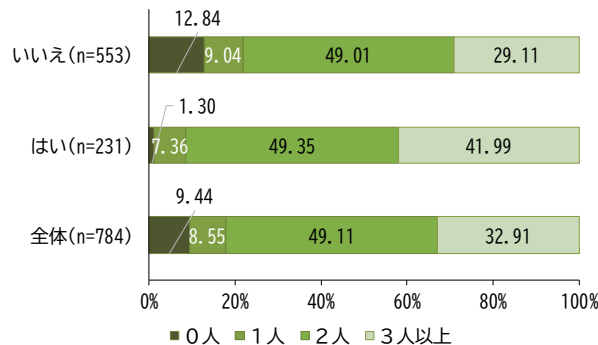
(2) 港区を居住地に選択した理由と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

- ・「子どもを産み育てる環境」は「理想子ども数」、「予定子ども数」、「両者の差」の全てにおいて有意な差がみられ、「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」は「予定子ども数」と「理想と予定の子ども数の差」において有意な差がみられた
- ・「子どもを産み、育てる環境」を理由に港区を選択したと回答した人は、「理想子ども数」「予定子ども数」が多い割合が高く、「理想と予定の子ども数の差」がない又は小さい割合が高い
- ・「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を理由に港区を選択したと回答した人は、「予定子ども数」が多い割合が高く、「理想と予定の子ども数の差」がない又は小さい割合が高い

港区を居住地に選択した理由についてクロス集計を行った結果、理想子ども数、予定子ども数及び両者の差において、一部の項目で有意な差がみられた。有意な差がみられた項目について、理想子ども数のクロス集計結果は図表5-8、予定子ども数のクロス集計結果は図表5-9、理想と予定の子ども数の差のクロス集計結果は図表5-10に示す。

港区を居住地に選択した理由別理想子ども数をみると、「子どもを産み、育てる環境」について有意な差がみられ、理想の子ども数が「3人以上」をみると、「はい」（「子どもを産み、育てる環境」を理由に港区を選択した）が41.99%、「いいえ」は29.11%となっている。

図表5-8 港区を居住地に選択した理由別理想子ども数
子どもを産み、育てる環境



注：縦軸は「はい」が「子どもを産み、育てる環境」を理由に港区へ転入していることを示している。

港区を居住地に選択した理由別予定子ども数をみると、「子どもを産み、育てる環境」と「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」で有意な差がみられた。

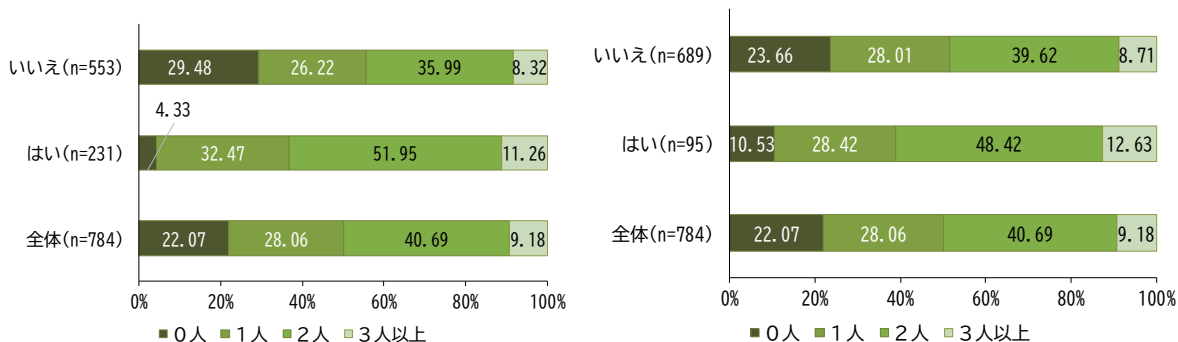
「(イ) 子どもを産み、育てる環境」について、「2人」と「3人以上」を合計した割合をみると、「はい」（「子どもを産み、育てる環境」を理由に港区を選択した）が63.20%（51.95+11.26）、「いいえ」は44.30%（35.99+8.32）となっている。

「(ロ) 公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」について、「2人」と「3人以上」を合計した割合をみると、「はい」（「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を理由に港区を選択した）が61.05%（48.42+12.63）、「いいえ」は48.33%（39.62+8.71）となっている。

図表 5-9 港区を居住地に選択した理由別予定子ども数

(イ) 子どもを産み、育てる環境

(ロ) 公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）



注：縦軸は「はい」が「子どもを産み、育てる環境」又は「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を理由に港区へ転入していることを示している。

港区を居住地に選択した理由別理想と予定の子ども数の差をみると、「子どもを産み、育てる環境」と「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」で有意な差がみられた。

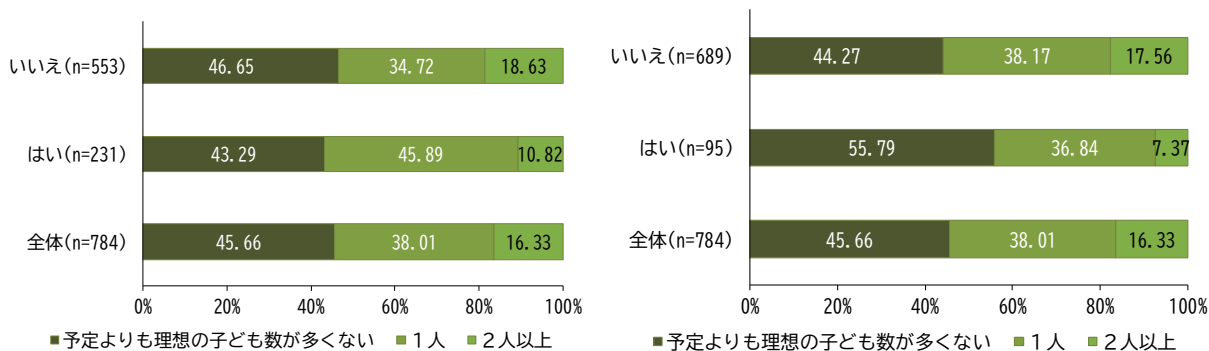
「(イ) 子どもを産み、育てる環境」について、理想と予定の格差が大きい「2人以上」に該当する人を見ると、「はい」（「子どもを産み、育てる環境」を理由に港区を選択した）が10.82%、「いいえ」は18.63%となっている。

「(ロ) 公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」について、上述と同じく「2人以上」に該当する人を見ると、「はい」（「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を理由に港区を選択した）が7.37%、「いいえ」は17.56%となっている。

図表 5-10 港区を居住地に選択した理由別理想と予定の子ども数の差

(イ) 子どもを産み、育てる環境

(ロ) 公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）



注：縦軸は「はい」が「子どもを産み、育てる環境」又は「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を理由に港区へ転入していることを示している。

(3) 港区への定住意向と理想子ども数、予定子ども数、両者の差

- ・「理想子ども数」、「予定子ども数」、「両者の差」の全てで有意な差がみられた
- ・「子どもの成長に応じて」港区からの転出を考えている人と「長く住みたい」と考えている人は、「理想子ども数」「予定子ども数」が多い人の割合が高く、「理想と予定の子ども数の差」はない又は小さい割合が高い

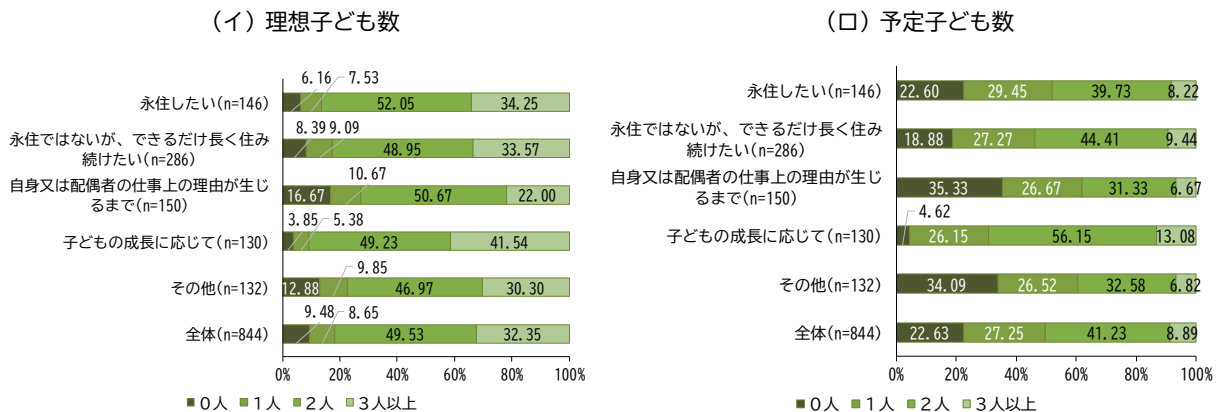
港区への定住意向についてクロス集計を行った結果、理想子ども数、予定子ども数、両者の差の全てで有意な差がみられた。クロス集計結果は図表5-11に示す。

「(イ) 理想子ども数」について、「3人以上」をみると、「子どもの成長に応じて」が41.54%と最大の値を示し、次いで「永住したい」は34.25%、「永住ではないが、できるだけ長く住みたい」は33.57%となっている。

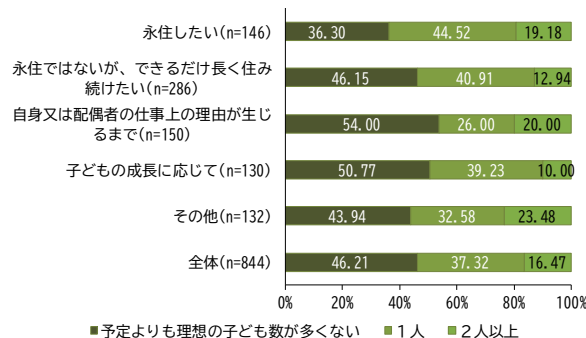
「(ロ) 予定子ども数」について、「2人」と「3人以上」のを合計した割合をみると、「子どもの成長に応じて」が69.23% (56.15+13.08)と最大の値を示し、次いで「永住ではないが、できるだけ長く住みたい」は53.85% (44.41+9.44)、「永住したい」は47.95% (39.73+8.22)となっている。

「(ハ) 理想と予定の子ども数の差」について、理想と予定の格差が大きい「2人以上」に該当する人をみると、「子どもの成長に応じて」が10.00%と最小の値を示し、次いで「永住ではないが、できるだけ長く住みたい」は12.94%、「永住したい」は19.18%となっている。

図表5-11 港区への定住意向別理想子ども数、予定子ども数、両者の差



(ハ) 理想と予定の子ども数の差



注：「子どもの成長に応じて」には、「子どもの保育園・幼稚園等への入園前まで」「子どもが小学校等に入学する前まで」「子どもが中学校に入学するまで」「子どもが高等学校に入学するまで」「子どもが大学等に入学するまで」を含む。

9 示唆される課題と対応の方向性

(1) 集計結果の要点

本章の集計で明らかにした結果の要点は以下のとおりである。

ア 両親と同居している人は、理想の子ども数を実現している

- ・回答者本人の両親と同居している人は、予定よりも理想の子ども数が多い（理想の子ども数を叶えることができている）割合が高い（図表5-2）。
- ・平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人と、理想子ども数、予定子ども数、両者の差に有意な差はみられなかったが、予定子ども数と関連がある（予定子ども数に有意な差がみられる）世帯所得（等価所得5分位）について、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人（あなたの配偶者（子の父親）と配偶者の母親（子の祖母））と世帯所得（等価所得5分位）に有意な差がみられ、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人についても、予定子ども数と間接的な関連があることが推測される（図表5-3）。
- ・なお、上記について、回答者属性別に分析を行った場合、全体とは異なる結果がみられる可能性があることから、第4節には掲載していないものの、今回有意な差がみられなかった平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人別理想子ども数・予定子ども数・両者の差について、世帯所得層別（第三・五分位以下と第四・五分位以上の2群）の要素を加えて、所得階層別に分析結果を比較した。その結果、低所得者層で子の父親が平日の子育てに関与している場合、予定子ども数で有意な差がみられた。

イ 身近な人を相談相手としている人は、予定子ども数が多い

- ・家族・親族（同居の有無を問わない）や友達といった回答者本人に身近な人を、子育ての不安や悩みの相談相手としている人は、予定子ども数が多い割合が高い（図表5-4）。

ウ 女性のキャリアの追求や性の多様性に関する価値観は理想子ども数を左右している

- ・結婚しても自身の人生の目標を持つことや同姓どうしの結婚や子育てに肯定的な人は、理想子ども数が少ない割合が高く、結婚することが望ましいと考えている人や家庭のために自身の生活を犠牲にすることに肯定的な人は、理想子ども数が多い割合が高い（図表5-5）。

エ ワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者が周囲にいない場合、理想と予定の子ども数が乖離している

- ・回答者本人の勤め先において、「フレックスタイム制度」や「育児時間制度」等の制度がない場合や勤め先の周囲に制度利用者がいない（いるか分からない）場合、理想と予定の子ども数の差が大きい割合が高い（図表5-6）。

オ 理想子ども数を実現している人は、「配偶者の仕事」や「結婚」をきっかけに港区へ転入している

- ・「配偶者の仕事」や「結婚」をきっかけに港区へ転入している人は、「予定子ども数」が多い人の割合が高く、「理想よりも予定の子ども数が少なくない」（理想子ども数を叶えることができている）人の割合が高い（図表5-7）。
- ・「子どもを産み、育てる環境」を理由に港区を選択したと回答した人だけでなく、「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を理由に港区を選択したと回答した人も、「予定子ども数」が多い割合が高く、「理想と予定の子ども数の差」がない又は小さい割合が高い（図

表5-9及び図表5-10)。

- ・「子どもの成長に応じて」港区からの転出を考えている人と「長く住みたい」と考えている人は、「理想子ども数」「予定子ども数」が多い割合が高く、「理想と予定の子ども数の差」はない又は小さい割合が高い(図表5-11)。

(2) 集計結果を踏まえた対応の方向性

集計結果を踏まえた対応の方向性は以下のとおりである。

ア 子育て世帯と親族の同居及び近居に関する支援の必要性

第Ⅲ章では、母親の子育て負担の軽減に向けて、配偶者以外の親族による子育て支援も有効な負担軽減策であり、その促進・支援の検討の必要性を述べた。

また、本章では、理想と予定の子ども数の差は、母親の同居者と直接的な関連があることが明らかになったことに加え、予定子ども数は、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人とも間接的な関連があることが推測される結果となった。

このことから、母親の子育て負担の軽減と理想子ども数の実現には、親族の子育てへの参加が求められる。

イ 子育ての不安や悩みの相談機関及び事業の周知強化及び周知対象の拡大

区民女性は、子育ての不安や悩みを家族・親族(同居の有無を問わない)や友達といった身近な人に相談する割合が高く、これらの対象に相談している人は予定子ども数が多い割合が高いことが明らかになった。

区では、みなと保健所や子ども家庭支援センター等で妊娠期から出産、子育てまでの各種相談を受け付けているほか、「港区おとなの子育て相談ねっと」(対象は、港区に住む18歳未満の児童の保護者と妊婦)や「港区不妊・不育相談ダイヤル」(対象は、港区在住・在勤で不妊や不育に悩む人等)など、多様な相談事業を実施するとともに、妊娠届の提出時や区への転入時において、相談機関や相談事業の周知を行っている。一方で、本調査の結果では、相談者本人が区や他の公共機関が設置する相談機関を利用する割合は低いことが明らかになっている。

このことから、子育てに関する不安や悩みを持つ人に対する相談機関等の周知を強化するとともに、親族や友達等、直接的に子育てをしていない人たちに対しても、広く周知を行う必要がある。

ウ 理想子ども数の増加に向けた施策の検討の必要性

本章での分析により、子ども数は様々な要因に規定されることが明らかになった一方で、理想子ども数は、結婚の利点や女性の就業や家族に係る価値観等、個人の価値観に左右される可能性が高いことも明らかになっている。

区の出生数を維持していくためには、理想子ども数の実現に加え、理想子ども数の増加も重要であることから、結婚しても自身の人生の目標を持つことや同姓どうしの結婚・子育て、ひとり親で子どもを育てることといった自由かつ多様な価値観を持ちながら、出産、子育てに希望をもつことのできる環境整備のための施策を検討及び実施することが重要である。

エ 出産・子育てとキャリア継続を実践する女性のロールモデルの提示

区民女性は、「フレックスタイム制度」や「育児時間制度」等の制度がない場合や勤め先の周囲に制度利用者がいない場合、理想と予定の子ども数の差が大きい(予定子ども数が理想子ども数を下回る)ことが明らかになった。

第Ⅲ章で述べたように、女性のキャリア継続を支援するためには、「港区ワーク・ライフ・バランス推進企業」の周知等により、本人・配偶者ともに育児休暇を希望どおりに取得可能となる制度運用を徹底する機運を醸成するといった区から企業への働きかけが必要である。

しかし、ワーク・ライフ・バランス向上に関する制度の充実及び機運醸成と制度利用者の増加には一定程度の時間を要すると考えられる。そのため、区がすぐに取り組むことができる取組として、出産・子育てとキャリア継続を実践する女性のロールモデルの提示が考えられる。出産を希望する女性に対し、多様なロールモデルを示すことで、ワーク・ライフ・バランス向上に関する制度利用者が周囲にいないことを補い、出産後の人生設計に対する不安の軽減に寄与できると考える。

オ 公園や区の施設の周知及び機能向上

本章での分析の結果、子育て世帯の転入理由として、「子どもを産み、育てる環境」だけでなく、「公園や区の施設（スポーツ施設や区民センター等）」を重要視していることが推測される。

港区には、区立公園が49か所、児童遊園が59か所、スポーツ施設（運動場、野球場、スポーツセンター等）が9か所、親子で遊ぶことができる子育てひろばが11か所（子ども中高生プラザ内の子育てひろばは除く）、子ども中高生プラザが6か所と子どもが遊べる場は充実しているといえる。

そのため、こうした環境の周知を広く行うことで子育て世帯の転入を促進することができると考えられる。さらに、各施設等の利用者に対して定期的な意見聴取を行い、可能な限りその意見を反映させるとともに、近隣地域との差別化を図ることで、港区ならではの子育て環境の形成が可能となると考える。

カ 結婚及び出産希望を実現できる港区としての魅力発信強化

「配偶者の仕事」や「結婚」をきっかけに港区へ転入している人は、理想の子ども数を叶えることができている割合が高いことが明らかになった。これは、結婚を期に港区へ転入した人が出産し、子ども数の理想を実現していることを表していると考えられることができる。

過年度の研究及び本調査研究により、港区の子育てを取り巻く環境への区民の評価はおおむね高い水準にあることが明らかになっており、第Ⅲ章では、シティプロモーション戦略において充実した子育て環境のアピールを強化する必要性について述べた。本章の分析により、子育て環境のアピールに加え、出産を見据え結婚を希望する人が「港区で結婚したい」と思えるような施策も実施し、区内在住者も区外在住者も対象としたプロモーションを併せて実施することが重要であると考えられる。

また、港区人口の増加傾向を長期に渡り継続させるためには、結婚や子育てのタイミングだけでなく、長期的なライフプランを区内で完結させることができる施策の実施及び周知も検討すべきである。

資料 各項目と理想子ども数、予定子ども数、両者の差のクロス集計結果有意性一覧

		理想子ども数	予定子ども数	両者の差
同居者の続柄	あなたの配偶者	○	○	○
	あなたの父親			○
	あなたの母親			○
	配偶者の父親			
	配偶者の母親			
学歴最終	本人			○
	配偶者			
形態雇用	本人			○
	配偶者			
色(へ)のワ・宅 現頻！テ勤	本人	○		
	配偶者			
口(ナ)のワ・宅 備コ頻！テ勤	本人			○
	配偶者			
結婚の利点	利点はない	○	○	○
	経済的に余裕を持つことができる		○	
	家庭内での分業や助け合いで生活が便利になる	○		
	病気になった時に面倒をみてもらえる	○	○	
	社会的信用を得ることができる			
	親を安心させたり周囲の期待に応えられる	○		○
	精神的な安らぎの場が得られる	○	○	○
	自分の子どもや家族を持つことができる	○	○	○
	性的な充実が得られる		○	
	その他	○	○	
未婚理由	仕事に打ち込みたいから			
	趣味や娯楽を楽しみたいから	○	○	
	家族を持つ責任がなく、気楽だから	○	○	○
	結婚する必要性をまだ感じないから			
	結婚生活のための住居のめどが立たないから			
	適当な相手にめぐりあわないから	○		
	他者とうまく付き合えないから	○	○	
	パートナーとの交際が自由だから			
	結婚資金が足りないから		○	
	独身で生活できるだけの経済力があるから			
	親の承諾が得られないから			
	交際相手・パートナーに結婚する気がないから			
	同性のパートナーと結婚する制度が整っていないから	○		
	夫婦別姓に関する制度が整っていないから			
離婚や死別の経験の傷がまだ癒えていないから				
その他		○		
子ども数の理想と予定の乖離理由	配偶者や交際相手がいないから	○	○	○
	収入が不安定だから		○	○
	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	○	○	○
	今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦労してほしいから			
	家が狭いから	○	○	○
	家庭内の人間関係が良好ではないから			
	育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから		○	
	将来的に家族の介護の負担が発生・増加する見込みがあるから			
	自分や配偶者の仕事に支障が出るから			
	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	○	○	
	幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから			
	自身や配偶者の仕事の都合で転勤があるから			
	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	○	○	
	配偶者が望まないから			○
	未子が配偶者の定年退職までに成人してほしいから			
	妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから			
	高齢で産むのが身体的に大変だから			
	自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいそうだから	○		
自分に子どもを育てられる自信がないから	○	○		
ほしいけれどもできないから	○			
その他				

		理想子ども数	予定子ども数	両者の差
	子どもの教育・保育にかかった費用		○	
与の以平 し子下日 て育の いて子小 るにと学 人関も生	あなたの配偶者(子の父親)			
	あなたの父親(子の祖父)			
	あなたの母親(子の祖母)			
	配偶者の父親(子の祖父)			
	配偶者の母親(子の祖母)			
子育ての不安や悩み	不安に思うことや悩みは特にはない	○		
	子育てによる身体の疲れが大きい			○
	子育ての出費がかさむ	○		○
	自分の自由な時間が持てない			
	仕事や家事が十分にできない		○	
	子どもと過ごす時間が十分に作れない			
	配偶者が子育てに参加してくれない			
	しつけの仕方が家庭内で一致していない		○	
	しつけの仕方がわからない			
	子どもについて周りの目や評価が気になる			
	子どもが言うことを聞いてくれない			
	子どもの成長の度合いに不安がある			
	子どもが集団生活に慣れない			
	子どもを一時的に預けたいときに預ける先がない			
	子どもが急病のときに診てくれる医者が近くにいない			○
	子どもの病気のときに仕事を休みづらい			○
	子どもがいる保護者同士の関係がうまくいかない			
気持ちに余裕をもって子どもに接することができない				
子どもを好きになれない(愛情を注ぐことができない)		○		
その他				
妊娠や子育てについて相談する相手	妊娠や子育てについての不安や悩みはない	○	○	
	誰にも相談しない	○		
	誰に相談したら良いかわからない		○	○
	同居している家族・親族	○	○	○
	同居していない家族・親族	○	○	
	友達(SNS上の友達を除く)	○	○	
	SNSで知り合った友達、知り合い			
	SNS等不特定多数の人が見ることのできる場所に書き込む			
	交際相手		○	○
	職場の同僚			○
	区の相談窓口(みなと保健所、子ども家庭支援センター、児童相談所、福祉総合窓口、港区おとなの子育て相談ねっとなど)			
	国や東京都など区以外の公的な相談窓口(東京都妊娠相談ほっとライン、親子のための相談LINEなど)		○	○
	民間の相談窓口		○	
その他				
医師、助産師、カウンセラー				
保育士、先生、療育先等の通所先の職員				
人生観	理想の人生	○	○	○
	現実の人生(現時点での見込み)	○	○	○
	理想と現実の人生のギャップ		○	○

	理想子ども数	予定子ども数	両者の差
女性の就業や家族等に 係る価値観	結婚しても結婚相手や家族とは別の自分だけの人生の目標を持つべきである	○	
	結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ	○	○
	夫に十分な収入がある場合には、妻は収入を伴う仕事をしない方が良い	○	
	結婚したら子どもを持つべきである	○	○
	子どもが小さいうちは母親は仕事を持たずに家にいることが望ましい		
	生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない	○	○
	女性が最初の子どもの産むなら20代のうちが良い	○	○
	(生物学的)男性同士、女性同士の結婚があっても構わない	○	
	女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	○	○
	男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	○	○
	両親のどちらかがいなくても、両親のいる家庭と同じように子どもを育てることができる	○	
年老いた親の世話に対する成長した子どもの責任は大きい			
生活時間	仕事(収入を伴うもの)に費やす時間(通勤時間を除く)(本人)		○
	通勤時間に費やす時間(本人)		○
	睡眠に費やす時間(本人)		
	家事(食事の準備・片付け、掃除、洗濯等)に費やす時間(本人)		○
	子育て(授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間)に費やす時間(睡眠時間を除く)(本人)	○	○
	ご家族(ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等)の介護、看護、通院に費やす時間(本人)	○	
	趣味・娯楽に費やす時間(本人)	○	○
	仕事(収入を伴うもの)に費やす時間(通勤時間を除く)(配偶者)		
	通勤時間に費やす時間(配偶者)		
	睡眠に費やす時間(配偶者)		
	家事(食事の準備・片付け、掃除、洗濯等)に費やす時間(配偶者)		
子育て(授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間)に費やす時間(睡眠時間を除く)(配偶者)	○	○	
ご家族(ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等)の介護、看護、通院に費やす時間(配偶者)			
趣味・娯楽に費やす時間(配偶者)	○	○	
ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間(区からの委託事業で利用している時間も含む)	○	○	
勤め先の企業 のワーク・ ライフ・ バランス 向上に 関する 制度 の有 無に 関する	フレックスタイム制度(本人)		○
	育児時間制度(子育てに配慮した労働時間削減、短時間勤務等)(本人)	○	○
	育児休業制度(本人)		○
	介護休業制度(本人)		○
	企業内の保育施設(本人)		
	産前産後休業(本人)	○	○
	フレックスタイム制度(配偶者)		
	育児時間制度(子育てに配慮した労働時間削減、短時間勤務等)(配偶者)	○	○
育児休業制度(配偶者)		○	
介護休業制度(配偶者)			
企業内の保育施設(配偶者)		○	
在先 地所務	本人		
	配偶者		
	等価所得5分位		○
	住宅保有形態	○	○
	今後3年間の家庭の暮らし向きの見込み		
	今後3年間の物価の見込み		○
港区への転入のきっかけ		○	
		○	

		理想子ども数	予定子ども数	両者の差
港区を居住地に選択した理由	子どもを産み、育てる環境	○	○	○
	就労への利便性			
	公共交通機関や買い物環境の利便性			
	防災や治安等			
	まちの景観・街並み			
	親族や友人等の人間関係			
	公園や区の施設(スポーツ施設や区民センター等)		○	○
	高齢者・障害者向けの福祉環境			
	資産価値			
	行政サービスの充実			
その他				
定住意向	○	○	○	
各種満足度	仕事(収入を伴うもの)			○
	結婚生活(配偶者との関係)		○	
	あなたの子どもの関係			
	健康状態		○	○
	余暇の過ごし方			
	現在の家計状態			
	港区の出産から就学前までの子育てのしやすさ※現在該当年齢の子どもがいない回答者も回答	○	○	○
	港区の小・中学生の教育・育成環境※現在該当年齢の子どもがいない回答者も回答	○	○	○
	港区の防災、防犯	○	○	
	港区の公共交通機関や公共施設、買い物店舗の利用しやすさ			
生活全般				